

父ちゃん、 きょうもいい肉 獲ってきてね。

2011年度「新聞広告 クリエイティブコンテスト」 結果発表

日本新聞協会広告委員会は、新聞広告の活性化を目的に「新聞広告クリエイティブコンテスト」を実施しています。今年度は「仕事」をテーマに募集し、全国から1403作品のご応募をいただきました。クリエーターの副田高行氏、一倉宏氏、児島令子氏、佐藤可士和氏、服部一成氏、前田知巳氏と大橋善光（広告委員会委員長）、松本肇、中山晴久、児嶋昭（同委員長）の審査委員10人による厳正な審査を経て、入賞作品を決定いたしました。入賞作品は当協会ウェブサイト（www.pressadvertising.com）でもご覧いただけるほか、10月中は日本プレスセンタービル1階（千代田区内幸町）で、11月からは、日本新聞博物館（横浜市中区）で展示します。作品タイトルと入賞者は次の方々です（敬称略、かつこ内は制作代表者の所属）。

○最優秀賞「頑張れ、父ちゃん。」代表 〓山川力也（たき工房）、CD・C〓山川力也、AD〓伊藤健介、小林秀彰○優秀賞「きび団子のため、だけじゃない。」代表 〓山口広輝（ジェイアル東日本企画）、CD・C〓山口広輝、AD・D〓武山範洋○優秀賞「丁前」小谷真理恵（日本経済広告社）○コピー賞「生を棒にふるような仕事したい。」代表 〓吉岡龍昭（佐賀広告センター）、CD・AD・C・D〓吉岡龍昭、D〓岡優一○デザイン賞「気持ち次第」代表 〓浅井友和（電通中部支社）、AD〓村土史洋、D〓齋藤修央、C〓浅井友和、安部敦子、Ph〓山下恭平○学生賞「七転び八起き」芳野瞳（福岡デザイン専門学校 ※略号はCD〓クリエイティブディレクション、AD〓アートディレクション、C〓コピー、D〓デザイン、Ph〓フォト）

《講評》

●副田高行 審査委員長 〓最優秀賞「頑張れ、父ちゃん。」は、日本の広告に欠けているウィットを感じさせる作品だと思います。仕事という概念がなかったころをユーモラスに表現しています。審査は10年目になりますが、作品全体のクオリティーは今回が一番高いですね。

●一倉宏 審査委員 〓最優秀賞「頑張れ、父ちゃん。」は、父親が朝、新聞を開いた時に苦笑いしながら「うん、頑張るよ」とうなずくような作品ですね。優秀賞「きび団子のため、だけじゃない。」は、震災後のメッセージとして受け取りました。海外ですが「主婦は深夜まで残業している」という視点には、はっとさせられました。

●児島令子 審査委員 〓最優秀賞は、仕事することの原点をシンプルにあっけらかんと示唆することのひとつ抜けていました。優秀賞「きび団子のため、だけじゃない。」は誰もが知ってる物語から新たなメッセージを発したのが良かったです。コピー賞の「生を棒にふるような仕事したい。」は、仕事〓人生であることを逆説的に熱く言及した作品として評価しました。

●佐藤可士和 審査委員 〓全体的に良くも悪くも優等生的な作品が多かった気がします。もっとビジュアルインパクトのある作品が見たかったです。最優秀賞「頑張れ、父ちゃん。」はコピーもタイポグラフィのバランスも良く、仕事の本質を表したシンプルで明快な作品になっていると思います。

●服部一成 審査委員 〓最優秀賞「頑張れ、父ちゃん。」は、仕事の原点をカラッと言い切り、なお味わい深い。全体には言葉が中心の作品ばかりで、視覚表現によってテーマの核心をつく意欲作が見られず残念でした。デザイン賞の「気持ち次第」は丁寧な作りが説得力につながりました。

●前田知巳 審査委員 〓視点の新鮮さ〓それによる「メッセージ力の強さ」というのが新聞広告に求められるのだとしたら、「仕事」というテーマも良かったでしょう。その要件に見合う優れた作品が多かった。最優秀賞「頑張れ、父ちゃん。」には、本質を言い当てながら人をどこか元気にする、まさに「抜けるいい」広告だと思います。

●上の作品…最優秀賞「頑張れ、父ちゃん。」

社団法人 日本新聞協会

〒100-8543 東京都千代田区内幸町2-2-11
日本プレスセンタービル 03-3591-4407